

# 美しく生きる

保内中学校  
校長室だより第6号  
平成30年6月13日  
文責 鎌田 宏和

## あいさつの力

ある日の朝、登校時間に日土地区を歩いていると、後ろから大きな声であいさつをする小学生がおりました。振り返ると、川向こうの小道を日土小学校の児童が集団登校しておりました。私は、彼らに届くように「おはよう」とあいさつを返し、再び歩き始めましたが、5～6歩進むと、また後ろから「おはようございます」の大きな声が聞こえてきました。さっきのあいさつが届かなかったのかと思い、更に大きな声であいさつをしましたが、また数歩行くと、川の向こうから「おはようございます」の声が聞こえてきたのでした。

「どうして何回も私にあいさつするのだろう」と不思議に思いながら歩いていると、再び彼らの「おはようございます」が何度も何度も聞こえてきて、その時私は、彼らのあいさつが、私だけでなく出会ったすべての人に向けて発せられていることを知ったのでした。それは、すれ違う人だけではなく、畑仕事をしているお年寄りや工務店の資材置場で仕事の準備をしている人、家の玄関先で花に水をやっている人や二階の干し場で洗濯物を干している人、さらには出勤途中のオートバイや自家用車の運転手などありとあらゆる人に送られていたのでした。私にはそれが、彼らを取り巻くすべての生き物にあいさつをしているように感じられ、日土の空を飛ぶ鳥や川を泳ぐ魚、道に咲く草花にもあいさつをしているようにも思えたのでした。

教員になってからずっとあいさつの意味や意義について考えてきました。堂々巡りの思考ですが、それは要約すると次のようなことです。

- 人はなぜあいさつをするのだろうか。
- あいさつをされた人は本当にみんな気持ちがいいのだろうか。
- 学校は、なぜあいさつを指導するのだろうか。
- あいさつをしたのに返ってこなかったら、なぜ不愉快な気持ちになるのだろうか。
- 「こっちがあいさつしたのに・・・」は自分勝手な考えではないのか。
- あいさつができない人には、どんな理由があるのだろうか。
- 気持ちのよいあいさつができる人とできない人の違いは何だろう。
- どのように指導すれば、生徒のあいさつが活発になるのだろうか。
- あいさつにはどんな力があるのだろうか。

町内を歩いていると、高齢の方にあいさつをしていただくことがあります。声を振り絞るようにして「おはようございます（こんにちは）」とあいさつしてくださるので、こちら心も込めてあいさつを返します。元気をいただいています。一方、私たちの年代も含めた若い方の中にはあいさつをしない方が多いように感じます。こちらから声を掛けても、返ってこないことがあり、少し寂しい気持ちになります。

冒頭の日土の朝、ある橋のたもとで、一人のお年寄りが彼らの登校を微笑んで見守りながらこう言いました。

「毎朝、子どもらが通るのを楽しみにしとるんよ。帰るときも見よるんやけど、子どもが一人おらんと、先生に叱られて居残りしとんじやろうかと思うたりするんよ。」

あいさつは、お互いの命の確かめ合い、そして元気の送り合い。あいさつは、相手の存在を認めることであり、自分の存在を伝えること。

この言葉に、私が堂々巡りで考えていたことの答えをいただいた思いがしました。

## 「竹」のように生きる ～ 節目を大切に ～

6月5日(火)の八西地区総体の賞状受納式で、生徒に次のような話をしました。

壮行会で「すべての技には、時がある」という話をしました。一人一人が磨いてきた技と鍛えた心を競う時は過ぎ、今、総体は過去のこととなりました。私は、すべての試合を見ることはできませんでしたが、先生方から各会場での皆さんの活躍を聞き、嬉しく思いました。上位入賞を果たし、県大会という更に高い山に挑戦するチャンスをいただいた皆さんは、地区の代表として、気持ちも新たに練習に取り組んでください。一方、残念ながらこの総体で部活動を終えることになった皆さん、皆さんが傾けてきた時間は、皆さん自身の財産です。これからは一人一人の新たな技を磨くために、確かな時を重ねてほしいと思います。

中学校において、総体は大きな節目と言えます。この節目の時を節目と捉えて生活できるかどうかは、とても重要なことです。皆さんは「竹」という植物が、なぜ強風に強く、折れにくいかわかりますか。それは、節を持っているからです。節があるから、どんな強風にさらされても体をしなやかにしならせて折れることがないのです。人間も、節目(物事の終わり始まり)を意識して生活している人は強いです。総体のような大きな節目の時でなくても、日常生活の中で、「何が終わって、何が始まるのか」を常に意識し、折り目節目を考えて生活する人は、困難や逆境に強く、何が始まろうが、何が終わろうが、ただただと生活をしている人は、何事にも本気で向き合えず、試練に弱いのです。日々の節目を大切に生活していきましょう。



### 〈お詫びと訂正〉

校長室だより「美しく生きる」第5号で掲載した総体の結果に誤りがありましたので、次のとおり追加・訂正いたします。大変失礼いたしました。

#### ○ 追加

準優勝 卓球男子

水泳 齊藤華 100m 平泳ぎ 3位

男子ソフトテニス 個人2位 住和樹・菊池俊輔 (県総体出場)

#### ○ 訂正

水泳 藤田涼花 200m 平泳ぎ 1位

※ \_\_\_\_\_線部、該当箇所

## 部活動休養日がスタートしました

先週の水曜日(6日)は1回目の部活動休養日でした。子どもたちの生活の様子はいかがだったでしょうか。ある学級の調査では、次のような状況でした。

- ・ いつもよりじっくり学習に取り組んだ (13%)
- ・ いつもより少しお手伝いをした (13%)
- ・ たくさん寝た (10%)
- ・ いつもとあまり変わらない (64%)

時間をうまく使うことで、生活の質的改善が図れることを期待しています。

なお今日(13日)は、2回目の部活動休養日ですが、「主体的な

活動を行える日」としています。前日の全校調査では、約100名(264名中)の生徒が学習や読書、生徒会活動や学級活動等の活動を申し出ています。活動を行う生徒も行わない生徒も、有意義な時間となるよう見守っていききたいと思います。(活動の詳細は次号でお知らせします。)